

クルーズ船感染 搬送に力

大泉・スター交通

民間救急の経験生かす

新型コロナウイルスの集団感染が起きたクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」。2月は横浜港で停泊する姿が連日報道されたが、その裏側では民間救急隊を担う大泉町のバス会社「スター交通」が感染者搬送に奮闘していた。

(敬称略、竹田迅岐)



防護服を着てバスの運転席に乗り込む新井専務（2月11日、スター交通提供）

新型 コロナ

2月9日夜、社長の確水浩敏（48）の携帯電話が鳴った。感染者が増え続けて運

ぶ手段がない。バス、出してもらえないか」。切迫した声の主は、民間救急事業者で作る「全県救急者搬送協会」の理事長・小谷哲司（55）だった。神奈川県協会の協力を要請を受けて、搬送用の車両の確保を急いでいた。クルーズ船には3000人以上が乗船。最終的に7

00人以上にもなる感染者は、この時点で70人だった。不気味に増え始めている。同県健康危機管理課の吉田和浩（47）は、救急車の確保が追い付かない状況に焦りを感じていた。バスならまとめて搬送ができる。だが、手を挙げる会社は少ない。連絡を受けると小谷は、

防護服や手袋、マスクは会社の事務所に残されていた。数年前に感染症患者の搬送訓練をしていたからだ。運転手には専務の新井康弘（63）を指名した。決断から約16時間後の10日午前9時、53人乗りのバスは横浜港に着いた。

翌11日に神奈川県の出張から意外な搬送先を打診された。静岡県病院だ。確水は「もはや近場の病院だけでは収容しきれないほど事態は深刻だと察した。車内の運転席と客席をシートで仕切り、座席の間隔を2倍以上離す。運転中は防護服とゴーグル、マスクを着用し、万全の体制を整えた。防護服は搬送終了まで脱げないので大人用のおむつをはいれた。マスクも外せない。約10人の感染者を乗せたバスは夕方に出発して掛川市などの病院を回り、港に戻った時にはすでに空が白み始めていた。

大阪府や茨城県へも搬送したが、医師や看護師は同乗しない。「容体が急変する不安があった。『救急に連絡する訓練も十分に積んできたはずだ』と自分を落し込めた」。ハンドルを握っている背中からせき込む音が何度も聞こえた。どこに連れて行かれるのか分からず、車内では「手を離さない外国人もいた。それでも下車する時には『サンキュー』とほほ笑んでくれる。新井は「未曾有の事態で自分が役に立

ただ、確水は即答できなかった。横浜市は営業区域外。テレビなどで社名が報道されると風評被害も懸念される。社員的生活は守れるのか。30分ほど考え、迷いは晴れた。「非常時で命に関わる人がいる。他社が行けないのなら自分たちが行こう」

「大泉でコロナの感染者が出たのは納得。それはスター交通があるから」。一瞬憤りを感じたが、意外なほど冷静に受け止めた。中傷に比べて応援メッセージが10倍近くあったからだろうか。中には「東

ている」と実感できた。この業務は2月26日まで続き、気がつけば船内感染者の1割を超える100人以上を搬送していた。

神奈川県の吉田は「あの頃のコロナはまだ正体のわからない感染症。遠方への急な出勤要請にも対応してくれなかった」と感謝を示す。県が手配できたバス会社は全国でたった1社、スター交通だけだった。

名高速を走っていると、クルーズ船の患者を運ぶバスを見た。思わず手を振りまわした」という書き込みも見つけ、目頭が熱くなった。そして、こんな思いに至った。「医療従事者だって中傷を受けても『自分が命を救わなくては』という思いで頑張っている」と。事故も従業員への感染もなく、事務所でも後方支援をした従業員も含めて「やり切れた」と充実した気持ちになった。



民間救急 緊急性を要しないものの医療処置が必要な傷病者を入院や転院などで搬送する民間事業。事業者の車両に赤色灯やサイレンはなく緊急走行はできない。全県救急者搬送協会にはスター交通など全国の23事業者が加盟している。

業務を無事に終えても、確水には不安が残った。懸念していた風評被害だ。ツイッターを見てみるとある言葉が目に飛び込んだ。「大泉でコロナの感染者が出たのは納得。それはスター交通があるから」

厚労省は5月、海外からの帰国者を安全に運ぶ基準を設けた。全県救急者搬送協会が初めてスター交通を同省ホームページに掲載した。今後もコロナとの闘いは終わらない。

2か月前半より

22日、群馬製作所（太田市、大泉町）の3工場が2か月半ぶりに通常生産を再開した。新型コロナウイルス感染拡大の影響で部品調達が困難になったことから、同社は4月9日から3工場の操業を約1か月停止し、その後も生産調整を続けていた。

浅間山 火山活動活発化 気象庁は22日、火山活動が活発化しているとして、浅間山（2568m）の臨時火山情報（前日）に続いて出した。20日午前7時頃から、山頂直下の海拔1120mの浅い場所から火山性地震が増え、同日に8回を記録。21日は8回、22日は午後7時現在で24回（連日）を数えた。マグマが上昇した際などに見られる膨張も南側の山腹で確認された。同情報は噴火警戒レベルを引き上げる可能性がある場合に発表される。浅間山の噴火警戒レベルは「1」（活火山であることに留意）となっている。

前橋市長の資産公開

カインズ 300人雇用へ

ホームセンター大手のカインズ（埼玉県本庄市）は、新型コロナウイルスの感染拡大の余波で離職や廃業を余儀なくされた人を対象に、全国で3000人の雇用枠を設けて積極的に採用していくと発表した。就職の内定を取り消された人も含め、今後1〜2年で店舗のアルバイトから正社員まで幅広い雇用する方針だ。

感染拡大に伴う外出自粛で、同社ではオンラインストアや店頭取り置きサービスの利用が増加。積極的な採用でこれらの対応を強化するとともに、社員の休日を増やすなどして就業環境を整える。

応募方法や採用人数、日程などはホームページ（<http://www.cainz.co.jp/news/>）に掲載する。

SUBARU（スバル） 通常生産再開

2か月前半より